

## 4月のアルミレポート及び5月の見通し (5)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



## 【輸出】

アルミ新地金が前年比+235.7%の194t。二次合金が-27.5%の1465t。

スクラップが-24.1%の7,075t。アルミ缶が15.1%の6477t。

## 【輸入】

アルミ新地金が前年比-17.2%の11万675t。二次合金が+0.5%の11万654t。

スクラップが-22.6%の534t。

合金スクラップが-13.7%の3,815t。

## 【見通し】

・自動車は生産が+0.2%。国内販売台数が前年比+0.5%。小幅ながら生産が3カ月ぶりプラス、販売が6カ月ぶりプラス。微増から増加に転ずるかどうかが今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で-8.3%と9か月連続マイナス。下げ幅が拡大、下落傾向が続くのかどうか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数、板類・押出生産合計は前年比-3%、2カ月連続マイナス。今後マイナスが続くか動向に注目。

## 【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+1.6%、7万1,514t、6カ月連続プラス。出荷は+0.2%、7万2,355t、6カ月連続プラス。今後もプラスが続くか注目。

・アルミ輸出は、LME価格の急騰や円安から、地金、缶は増加。ただスクラップに関しては内需用途から減少した。

・アルミ輸入は円安を受けての割高感から地金、合金(スクラップ)は減少、その他は増加。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫は、GW休み前のリスク売りが済んでおりほとんどないのではないかと。

需要面に関しては前月に続き自動車の生産、販売が低迷していることやアメリカのアルミへの関税問題からの高値警戒感から購買意欲は薄いのではないかと？

## 【価格・為替予想】

今月は米の露ルサルへの制裁の動向や米朝会談及び北の核廃棄問題に左右される。

米の露ルサルへの制裁の動向に関しては露ルサルからアルミの供給を受けている米企業に対し、米政府が制裁措置への対応期限を延期し、一段の制裁緩和を示唆するなど軟化も見せており落としどころを探る交渉が続くのではないかと。

米朝会談に関しては、簡単に核廃棄とは行かないものの北朝鮮側は追い詰められている状況でもあり、金政権体制が担保されるなら廃棄する可能性もあり。

それらを踏まえた5月のアルミ価格は、ルサルに対して米が再び経済制裁を行ない供給懸念が台頭し、米朝会談が問題なく行われた場合、先月高値の2,600ドルを予測。いずれかの場合は2,400ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合先月安値の2,200ドル。為替は、上記材料から、ドル円値は106円~110円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては0~+5円程度と予測している。

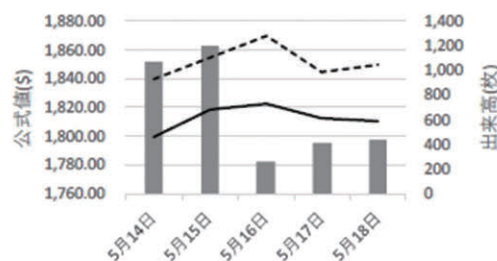
【「4月のアルミレポート及び5月の見通し」終了】

小紙『日刊金属』では、バックナンバー閲覧用サイトを開設しております。ご利用ください。

dailiesmetal.com

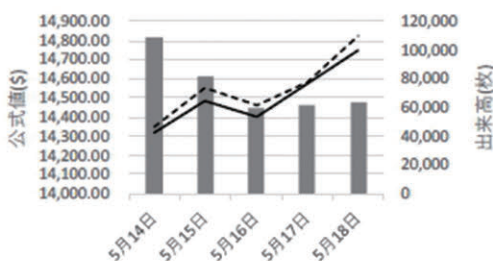


LME北米特殊アルミ合金



■ 出来高 — 直物 - - - 先物

LMEニッケル



■ 出来高 — 直物 - - - 先物